

イギリス在住クルド移民のエスニック境界 に関する人類学的研究

報告者: 岸田圭司 (D2)

派遣先: ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院 (SOAS)

受入れ教員: Dr. Nelida Fuccaro

期間(予定): 2009年9月27日～2010年3月26日

研究の目的

□ 二つの側面

□ 1) クルド人に関する民族誌的研究
移住先におけるクルド人の生活実践

□ 2) 難民の民族誌的研究
難民としての越境を労働移民とは異なる移
住の一形態として捉え、その特長を明らか
にする

研究概要

世界各地に離散したクルド人 推定100万人強

今日、ほとんどの欧米先進国にクルド人が暮らす状況

クルド人→多様な民族集団。方言差、宗教・宗派、そして、部族的紐帯など、内部に多くの差異を抱える。

イギリス→出身国では出会うことのない様々な文化的背景を持つ同胞との出会いの場

クルド人による自助組織・団体に注目し、その組織が誰によって、誰を対象として、また、どのような活動をしているのか、メンバーの社会的背景等を調査、比較、検討

研究対象 →イラク系クルド人(イギリスに庇護を求めて入国)

彼らの生活実践を記述する難民の民族誌的研究

研究の意義

- 1)クルド人の民族誌的研究はこれまでわずかである

 - 2)移民に関する研究は、ホスト国における社会統合に関する諸問題に関心の中心が置かれてきた。しかしながら、移住者そのものの情報は少ない
-

調査地・調査対象 概要

イギリスを選択した理由

在イギリスのクルド人→トルコ、イラク、シリア、イランなど多様な
出身国のクルド人が居住（推定人口 約20,000人～100,000人）
イラクの委任統治の受任国としてイラク建国に大きく関わる。

調査地: ロンドン及びその近郊都市

調査対象: 主にイラク出身のクルド人
※イラク国内約400万人

特長: 労働移民としてではなく、「難民」として移住
イラク政府の閣僚輩出
出身国における一定の政治的権限を持つ

予備的調査

- 2005年11月2日～23日
イギリス(公文書館調査)
 - 2006年 10月9日～10月21日 イギリス
 - 10月22日～11月1日 ドイツ
インタビュー・公文書館調査(イギリスのみ)
亡命の「旅」に関する聞き取り
-

調査計画

クルド人コミュニティへの参与観察

個別インタビューによるライフヒストリー収集

在英クルド人自助組織の調査(チャリティ団体、NPO、メディアなど)

図書館、公文書館での史・資料渉猟

公的機関(KRG, UNHCR, IOMなど)訪問・資料収集

派遣期間中のイベントの参与観察

チャリティ団体

公益を目的とする団体

(「貧困の防止・救済」、「教育の振興」、「宗教の普及」など13項目)

クルド系約60団体が登録

(チャリティ委員会・2009年3月31日時点 岸田調べ)

母語教育、経済的支援、コンサート開催などの文化的活動など

90年代から急増

非登録団体、NPO、メディアなどについても調査

帰化クルド人の活動(British Kurds)

イラク出国→イギリス入国→庇護申請→難民認定・在留許可→帰化申請→市民権獲得

- 難民認定/申請却下
 - 難民のその後についての調査
-

派遣期間中の課題

- イギリスは世界的にもクルド研究が盛んである。この機会を利用し、出来るだけ多くの研究者と交流し、自分の研究の位置を確認したい
 - 本研究は、博士論文の一部を成すものであるが、その成果は積極的に査読付き学術雑誌への投稿を目指すものとする
-